

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>市と協働し適正な包括支援センター運営に努めた。令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、包括支援センターゆずの独自事業を事業計画通りに実施した。また、継続して茅ヶ崎地区まちぢから協議会の委員として定例会への参加や茅ヶ崎地区ボランティアセンターや地区社会福祉協議会への会議は7月以降出席することができ、一定の協力体制を推進することができた。また、地域ケア会議はICTを活用して1回開催することができた。地域活動充実事業の一環としてセンター独自のA4版のチラシを作成して、まちぢから協議会の協力を得て茅ヶ崎地区内へ全戸配布を実施した。その他マンション自治会に対して認知症に関する意見交換会を開催したり、民児協の勉強会で4年度の体制についての周知を行う等地域団体、地域住民とのネットワーク構築を推進することができた。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の人材育成計画について、人事管理的な取り組みはされていたが、個別の計画作成は確認できなかった。4年度は個別の計画作成に取り組んでいる。 ・消費者被害に関する情報提供について、神奈川県から提供されたチラシを民生委員等に配布しているが、記録がされていなかった。4年度はデータで記録を残すように改善されている。 ・介護支援専門員と多様な関係機関等との意見交換について、2年度は実施されていなかったが、3年度は薬剤師との意見交換会の開催がされていた。 ・地域ケア会議の開催について、3年度は地域課題の発見までの取組となっていて、地域づくり・資源開発の機能を持つ会議の開催はされていなかった。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 茅ヶ崎南地区地域包括支援センターつむぎ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>介護予防としてコグニサイズやちがさき体操をサロンで年7回実施。サロンサザンビーチでは年2回出前講座を行った。地域ケア会議は「集いの場」について地域住民と情報共有や地域づくり・資源開発に向けた意見交換を行った(会議では若松町の1300世帯に対してアンケート調査を実施した結果を基に分析・報告を行った他、地区の社会資源マップを作成し活用)。地域ケア個別会議では、地域の介護支援専門員と連携を図っていたオートロックマンションに住む認知症の独居高齢者についてマンションの管理組合や警察などを交え意見交換を行った。困難ケースに関しては認知症初期集中支援チーム員会議へ参加し、市や医療機関、各関係機関と連携・協力を図り成年後見制度など問題解決に向けて積極的に取り組んだ。また担当圏域の居宅介護支援事業所に対し「関係機関・関係者との連携、意見交換」についてアンケート調査を行い、介護支援専門員のニーズ把握に努め、意見交換の場としてボラセン会議への参加調整を行い情報の共有を図った。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害について、個別事例の対応を通して消費生活センターや警察から得た情報を、地区の民生委員に情報共有していた。 ・自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントの基本方針の説明について、2年度は実施されていなかったが、3年度は居宅介護支援事業所と事例検討会の場を活用して説明していた。 ・地域課題を検討する地域ケア会議について、2年度は開催されていなかったが、3年度は地域住民の協力を得て実施したアンケートの分析結果を基に、地域課題について意見交換を行っていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 南湖地区地域包括支援センターれんげ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>コロナ禍にあり、活動を自粛せざるを得ない状況もあったが、その中でも包括れんげの周知につながる活動(れんげ通信の発行、れんげひろばの開催、れんげクラブの継続)を行った。</p> <p>地域のサロン活動についても開催があるときには出席した。</p> <p>地域ケア会議については、コロナ禍である状況を踏まえ計画を変更し、個別事例の検討の会議と、南湖地区における防災減災に関する会議を行うことができた。防災減殺のテーマでは事前にアンケートを取り各団体や事業所が抱える課題等共有し、それぞれの連携が重要であることの認識を深めることができた。</p> <p>担当圏域内の居宅のケアマネジャーのニーズに基づき多様な関係機関との意見交換の場を設けることができなかつたため、次年度は取り組みたいと考える。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月27日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員のニーズに基づく意見交換は、2年度に引き続き実施できなかったが、4年度は薬局等との意見交換を予定している。 ・在宅ケア相談窓口への相談については、包括内で解決できたため、相談する事例がなかった。 ・感染対策を講じた上で、地域で高齢者の介護予防にボランティアで取り組む高齢者支援リーダー等と連携して、介護予防体操等を行う“れんげクラブ”などに取り組んだ。また、防災減災に関する地域ケア会議を毎年開催している。サロンへの参加など地域からの依頼にも積極的に協力をしている等、センターでは、地域の関係者と連携協力し、地域の社会資源を有効活用している。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 海岸地区地域包括支援センターあい)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防しながら対策を講じた上で地域活動に取り組んだ。自治会の協力を得ながら周知を行い、令和3年度、四季サロンは3回実施。ちがさき体操・湘南くち体操・ぷちコグニサイズについては7回開催し、SNSによる発信も頻繁に行った。今年度は高齢者の見守りネットワークについて民児協との協力体制を積極的に話し合い、地域ケア会議の中で自治会や居宅介護支援事業所等とも共有し、「あいだより」にて地域住民にも周知を図った。災害時の安否確認についても民生委員とマップ等の共有をし、日頃から連携が取りやすい関係性作りにも努めた。民児協からの依頼により地域包括支援センターの説明や介護保険制度等勉強会を4回行い、地域住民からの依頼で「住み慣れたまちでくらし続けたい」のテーマで講座を行うなど地域に向けて介護予防等普及啓発活動を行った。室内・屋外の掲示板を積極的に活用し、新しい情報の更新をこまめに行った。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員と多様な関係機関等との意見交換について、2年度は実施されていなかったが、3年度は年度当初に介護支援専門員のニーズを把握し、民生委員との意見交換の場を設定していた。 ・介護予防・自立支援に関する出前講座について、2年度は実施されていなかったが、3年度は地域団体の会合等で出前講座を開催していた。 ・地域づくり・資源開発の機能を持つ地域ケア会議の開催について、自治会や民生委員と連携し、見守りネットワーク形成について、検討がされていた。 ・2年度は国評価のうち8項目が未達成であったが、3年度は全ての項目について改善がされていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 鶴嶺東地区地域包括支援センターさくら)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>令和3年度コロナ禍の2年目は、感染予防対策を講じて事業計画を進めた。市内高齢者人口が2番目に多い地域包括として主任介護支援専門員1名の人員を増加し、体制を整えることができた。</p> <p>人材育成について、職員が満遍なく参加し伝達講習を行い、4年度からの地域共生社会促進に向けて準備し、福祉相談室と連携し鶴嶺東ネットワーク会議に参加して体制を整えることができた。</p> <p>地域支援事業として、地域サロン活動は中止となっているが、地域の情報共有を継続している。</p> <p>認知症サポーター養成は、計画通り(鶴嶺中学校)実施できた。</p> <p>自主事業である「さくらクラブ」の開催は夏季休止しているが、毎月実施し健康増進の活動が継続できた。地域包括支援センターさくらの広報活動として、さくらLINE公式アカウントの作成を行い情報発信の準備ができた。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月27日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員のニーズに基づく多様な関係者との意見交換は、2年度に引き続き実施できていなかった。4年度に向けて検討中である。 ・2年度に実施できなかった、個別地域ケア会議や、自立支援に向けた出前講座等については、意識して取り組んでおり、目標を達成できていた。 ・高齢者人口や業務量を踏まえ、主任介護支援専門員1名を増員するなど、人材確保や人材育成に積極的に取り組んでいる。 ・情報発信の手段として、さくらLINE公式アカウントの開設に独自にて取り組みはじめた。4年度の有効活用に期待したい。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>感染症の収束気配がないまま経年している中、ワクチン普及と感染予防対策により住民含め職員の意識が変化した為、令和3年度に予定した事業は、ほぼ開催できた。民児協議や地区社協との連携は様々な面で継続できている。まちぢから協議会主催のアンケート集計に参加できた事は今後の地区診断にも活かすことができる。地域行事は未開催行事が多く、参加機会が無かったが、独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のためのポールウォーキング・脳活クラブは回数を増加して行うことができた。運動のできる良い機会として地域住民から定期開催の期待が寄せられており、継続して開催予定である。予定通り地域の障害分野の福祉事業所との協働による認知症サポーター養成講座を開催できたことは今後の共生社会対応への一歩となった。事業等の開催に際し、包括の紹介を含めた「みどり通信」の定期的な発行と配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内、参加者募集に活用できた。4年度に取り組む予定の認知症サポーター養成講座開催の周知のためにも地域事業所への訪問を活かしていきたい。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月27日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの周知について、コンビニ・病院・薬局などの関係機関にパンフレットを配架するとともに、まちぢから協議会と連携し、ホームページに関連機関として掲載してもらうなど、多様な方法で実施していた。 ・介護支援専門員と多様な関係機関等との意見交換について、2年度は実施されていなかったが、3年度は司法書士に消費者被害についての助言を依頼し、民生委員とケアマネジャーとの意見交換会が開催されていた。 ・地域課題の把握とネットワークの構築の機能を持つ地域ケア会議は開催されていたが、地域づくり・資源開発の機能を持つ会議の開催には至っていなかった。 ・2年度は感染症対策で実施できない事業も多くあったが、3年度は感染の状況を見ながら、必要な感染予防を行い、独自事業の開催等に取り組んでいた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 湘南地区地域包括支援センターすみれ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>令和3年度の事業計画に基づき事業運営を進めたが、コロナ禍において中島中学校での認知症サポーター養成講座は中止。湘南オレンジカフェ(すみれカフェ)は、やむを得ず実施できない月があった。中島地区の個別避難計画作成モデル事業を通し地域の防災リーダーさんとの連携を図る事が出来た。地域ケア会議は個別課題解決機能1件、地域課題解決機能とネットワーク構築機能では湘南みまもりタイ活動について1回、代表者の方に参加して頂き実施。湘南地区のオレンジカフェを考える会はオンラインで1回実施。地域活動充実費を活用し、オンラインの際利用するマイク等を購入、昨年度作成したマグネットを配布した。介護予防や消費者被害防止、権利擁護事業、感染症対策等についての周知は、介護予防通信や関連のチラシを展示したり、利用者に配布し電話で声掛けを行った。家族介護教室では、セルフリンパマッサージを学んで頂いた。車椅子やポータブルトイレなどの備品を一時的に貸し出し、年間55件の利用があった。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の適正な人員配置については、年度途中で退職者がでたため法人も含め人員確保に努めたが、確保することができなかった。利用者への支援に支障がないように職員間で話し合いを密に行うなど工夫していた。4年度は人員確保ができた。 ・介護支援専門員のニーズに基づく多様な関係者との意見交換は、2年度は未実施であったが、3年度はズームを活用して民生委員等と意見交換を行っていた。 ・コロナ禍のため実施できない事業もあったが、地域ケア会議や認知症カフェ(コグニサイズ)、カフェに取り組む団体への協力など、継続して認知症をテーマに取り組んでいる。 ・車いすやトイレなどの備品貸し出しをセンター独自の取組として実施しているが、利用件数が増えてくるなど地域住民や関係者に定着してきている。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 松林地区地域包括支援センターくるみ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
50個	6個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>茅ヶ崎市指標「茅3」について、職員の退職に伴い、新しい職員の入職があったが、地域包括支援センター運営マニュアルや業務チェックシートを活用し十分な引継ぎを行うことができた。</p> <p>地域ケア会議では、市人材育成の共通テーマで取りくんだ「孤立化防止に向けた地区診断」の共有と意見交換を行うことができた。個別課題解決機能に対する地域ケア会議は、場所の確保や参加者への案内などコロナウィルス感染状況の観点から計画立てが困難であったため実施できなかった。令和4年度は4つの機能を網羅した会議開催を実施したい。</p> <p>一方、「国35Q46」出前講座については、参加人数や実施場所などを工夫して、公民館や介護サービス事業所の協力を得ながら一部実施できたことは良かった。「国55Q66」認知症初期集中支援チーム員会議では事例を提供し、チーム員と連携を図り支援方針を検討しながら動くことができた。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の人材育成について、人事考課を活用し、個々の職員の目標を定め、具体的な研修計画を立てて取り組んでいた。 ・消費者被害に関する情報提供について、2年度は実施されていなかったが、3年度は地区民協の定例会で情報提供がされていた。 ・介護予防・自立支援に関する出前講座については、ポールウォーキングを活用し、介護予防についての意識啓発が行われていた。 ・地域ケア会議の開催について、感染拡大防止対策もあり、個別事例の検討のための会議は開催できていなかったが、地区診断の結果を受けて、高リスクとなる地区の課題共有と地域課題の発見に取り組んでいた。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 湘北地区地域包括支援センター あかね)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
52個	4個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>令和4年度の体制(重層的支援体制整備事業)に向けた、研修や周知を1年かけ行ってきた。 茅ヶ崎市とのヒアリングで助言があり、予防支援事業の委託ケースの管理表の運用を開始した。 介護支援専門員への支援が不足したことが、4年度に向けた課題だと考える。今後の課題と見据えて、介護離職の相談内容の件数把握に努めた。 地域ケア会議については、個別事例検討の他、地域づくりや資源開発のための検討を行うことができ、4年度に向けて具体策(湘北ボランティアセンターの周知活動)を実施していくための土台作りができた。 その他、高齢化率が高い鶴が台団地で、訪問看護事業所と共催で、健康相談会を定期的に行うを開始し、引きこもり等、高齢者以外の相談にも対応した。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月26日 ・介護支援専門員のニーズに基づく意見交換及び介護支援専門員の支援のための出前講座等については、実施することができていなかった。 ・介護離職が今後課題になると予測し、相談内容や件数を把握仕組みを構築していた。 ・地域ケア会議の運営方針の共有や課題の分析等については、2年度は実施できていなかったが、3年度は意識して取り組んでいた。また、担い手の確保をテーマに、継続して地域づくりや資源開発のための地域ケア会議に取り組んでいた。 ・担当地区の中でも高齢化率が高く、高齢者数も多い鶴が台団地で、地域の関係者と連携し、月に1回、相談会を開催するなど、地域の実情を踏まえたセンター独自の取組を行っている。</p>
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 小和田地区地域包括支援センター青空)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
53個	3個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>茅ヶ崎市の方針に沿って新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、事業運営に取り組んだ。積極的にZOOMを活用することで、防災や移動支援をテーマとした地域ケア会議を2回開催できた。</p> <p>また、研修の参加回数も大幅に増えスキルアップに繋がった。</p> <p>市営小和田住宅外複合施設内の会議室で鬱予防、住まい探しをテーマとした対面研修を2回開催した。自己啓発を目的としたセンター専門職による勉強会も行った。</p> <p>センターで作成した消費者被害についての動画や地域包括支援センター保健師部会で作成した認知症高齢者の対応についての動画を使い住民へ情報発信できた。</p> <p>これまでと違う形で地域ケア会議や家族介護教室、包括青空の独自事業に取り組むことができた。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員と多様な関係機関等との意見交換について、介護支援専門員との連携は積極的に図っていたが、多様な関係機関との意見交換の場の設定は確認できなかった。 ・2年度運営評価時に受けた助言を活かし、地域ケア会議の開催通知を送付する際に地域ケア会議の運営方針を同封し、周知を図っていた。 ・地域ケア会議について、自立支援、重度化防止等に資する個別事例の検討と対応策についての具体的な取組は確認できなかった。 ・在宅ケア相談窓口への相談については、対象となるケースがいなかったため、活用する機会がなく、相談実績がなかった。
---	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称:松浪地区地域包括支援センターさざなみ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
54個	2個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>地域の高齢者等の参加の場として、朝のラジオ体操の開催、地域をつなぐ「趣味の冊子」を年2回更新した。また、「趣味の冊子」に掲載されている方を対象にした地域ケア会議を令和4年度開催予定している。</p> <p>4年度に向けた属性を問わない相談対応を目指し、職員が人材育成研修に取り組んだ。オンラインで研修ができるよう整備し、不具合なく研修に参加することができた。</p> <p>新型コロナ感染のため職員の休みがあったが、日々の記録を活用することで、相談を中断することなく行えた。</p>
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の切れ目なく業務を実施するための仕組みについて、業務マニュアルは作成されていなかったが、個別の利用者の引継は切れ目なく行っていた。 ・センターの周知については、民生委員の定例会だけでなく、「趣味の冊子」を置いている協力機関にパンフレットを配布するなど周知の工夫を行っていた。 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援については、担当圏域の介護支援専門員との意見交換の場を設けるとともに、コミセン職員を対象に出前講座を実施していた。 ・地域ケア会議については、関係機関へ運営方針の事前周知を行うとともに、報告書を通して参加者と検討結果について共有していた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 浜須賀地区地域包括支援センターあさひ)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
52個	4個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>茅ヶ崎市指標の災害対策について、WEBを活用した安否確認の訓練を実施した。国指標について、令和2年度に未実施の地域ケア会議運営方針の参加者への周知や在宅医療相談窓口に対する相談を行った。地域ケア会議について、個別事例の検討は行ったが、地域課題や地域づくりを目的とした検討はできなかった。新型コロナウイルスのまん延により地域活動が一部制限されたが、ICTの活用など工夫して実施できるようにしていきたい。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の人材育成について、人事考課表を作成し、明確な目標を定め、具体的な研修計画を立てて取り組んでいた。 ・地域ケア会議の運営方針の周知について、2年度は実施できていなかったが、3年度は会議の場で参加者に説明を行っていた。 ・地域課題を検討する地域ケア会議について開催できていなかったが、4年度には改善できるように取り組んでいた。 ・地域の関係機関の情報について、地図に病院、薬局、介護サービス事業所等を記載し、視覚的に分かりやすいように工夫がされていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和3年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称:小出地区地域包括支援センター わかば)

国業務評価 (3/31時点)		市運営状況評価	
○	×	○	×
53個	3個	8個	2個

地域包括 支援センター 自己評価	<p>令和3年6月末に、社会福祉士が療養休暇に入り、7、8月は社会福祉士不在となった事で、切れ目のない業務遂行が実施出来なかった。 引き続きコロナ禍であったが、わかば通信を活用して包括支援センターを周知した事は、総合相談の件数増加に繋がったと思われる。又、4年度からの重層的支援体制事業を見据えて、総合相談支援業務にあたった。 権利擁護業務では、長期的に、高齢福祉介護課、ケアマネジャー、事業所と連携し、虐待ケースの対応に当たった。又、各サロンで消費者被害の防止活動に務めた。 事業者連絡協議会の防災の会に、土砂崩れ地区として参加したことをきっかけに、職員の防災対策への意識が高まり、わかば通信27号で防災をテーマ取り上げた。民生委員児童委員との、担当地区ごとの避難行動要支援者名簿掲載者の情報共有作業を開始し、4地区実施し、消防団とも連携の機会をもった。又、土砂崩れエリアを明細地図に転記して、訪問時の意識付に役だった。</p>
---------------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	<p>【ヒアリング実施日】令和4年5月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市評価の切れ目のない業務や適正な人員配置については、職員の急な療養休暇のため、職員間で連携協力して業務にあたったものの引継ぎが十分にはできなかった。4年度は人員を確保できている。 ・苦情対応については、記録に残されていないものがあったが、朝のミーティングなどで職員間で苦情内容や対応策を共有していた。 ・自立支援に向けた出前講座等は、2年度は実施できていなかったが、3年度は地域の方と連携協力し、コグニサイズなどに取り組んでいた。 ・防災対策について、民生委員や消防団等地域の関係者と話し合いの場を設けるだけでなく、わかば通信等を活用し、地区住民全体への周知にも努めていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--